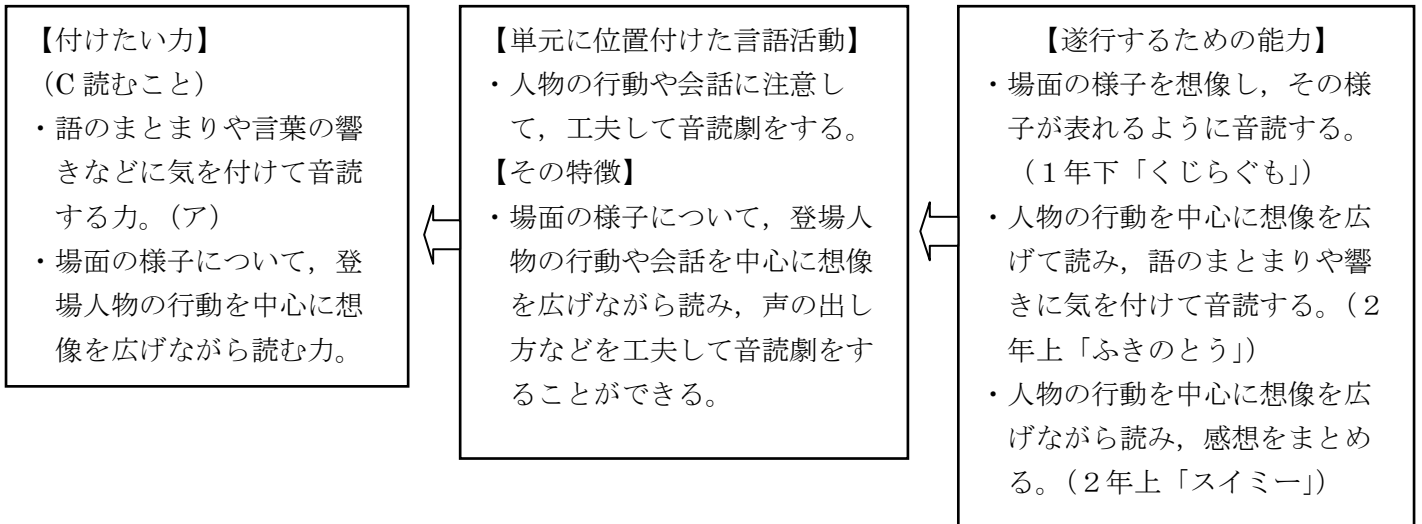


第2学年 国語科学習指導案

日時 平成29年9月28日(木) 6校時
児童 2年3組 男14名 女17名 計31名
指導者 小菅 悠樹

- 1 単元名 登場人物の行動や会話に注意して、音読劇をしよう
教材名 「お手紙」(光村図書 2年下)

2 単元に位置付けた言語活動



3 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、4月に「ふきのとう」の物語文を学習した。その際、登場人物の様子を動作化することや、様子がわかる言葉や文に気を付けて読むことで、多くの児童が登場人物の気持ちを捉えることができた。また、「スイミー」の学習では、場面の様子について想像を膨らませ、それぞれの場面でのスイミーの気持ちを吹き出しに書く学習を行ってきた。

音読は、1年生から、さまざまな場で重ねてきている。その際は、「点や丸」、「口の開け方や声の大きさ」、「語のまとまり」に気を付けるなど、はっきりと正確に音読するということを中心に学習してきている。2年生上巻「ふきのとう」では、人物の様子やしていることに気を付け、読み方を工夫する役割読みを体験している。しかし、文章の内容を捉える力には個人差が大きく、大切だと思う言葉や文を見付け、サイドラインを引く活動で全文を選んでしまうなど、読みの視点を与えることが必要な児童もいる。

交流活動については、ペアやグループで自分たちの考えを交流してきた。特に国語科では、相手の考えを聞き、良いと思ったところをメモするなど、自分の考えを修正したり、確かなものにしたることができるようになってきている。しかし、自分の思いをもっていてもそれをうまく言葉で表現できなかったり、自信がもてず、発表しないでしまったりする児童も少なくない。

(2) 教材について

小学校学習指導要領における第1・2学年「C読むこと」領域の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、

楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。また、本単元の指導事項は「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」である。

本教材は、二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。物語の展開に沿って、「がまくん」「かえるくん」の行動がどう変わっていくかを読み取らせるのに適している。また、お手紙を待つ2つの場面の違いについて、挿絵や叙述から読み取らせるなど、作品全体を味わう指導も併せて行い、物語の読み方にもふれていきたい。

(3) 指導にあたって

【研究内容1 言語活動を充実させる単元構想】

本単元は、「登場人物の行動や会話に注意して、音読劇発表会をしよう」ということを単元のゴールとして設定する。

【研究内容2 思いをもって伝え合う言語活動】

第一次では、単元のめあてを確認し、同じ学年の他のクラスに音読劇を発表するというゴールをつかませる。単元のゴールを最初に示すことで、児童が目的をもって学習に取り組むことができる。

第二次では、場所の移り変わりに着目して、場面ごとに人物の行動と会話を整理していく。次に、がまくんとかえるくんが、書いてあることがわかっている手紙を長い間待っていたわけについて考え、話し合う。そして、音読劇で自分が読む部分の読み方や動きの工夫を考え、グループで練習を行う。練習を行う中で、友達の感想や助言を取り入れ、自分の読み方の工夫に生かしていくようにする。

第三次では、「がまくんとかえるくん」シリーズの中から、お気に入りのお話を友達に紹介する。そして単元のまとめとして、はじめの音読の様子と音読劇の様子を比べ、音読をするときの工夫をまとめる。

【研究内容3 高まりを自覚させる振り返り】

単元を通して身に付けた力や学びの高まりを自覚させるために、単位時間ごとに振り返りを行っていく。また、第一次での音読の様子と第二次での音読劇をビデオに撮影しておき、比較することで、自らの読みの深まりや、音読の上達を子ども自身が実感できるようにする。

4 単元の指導目標及び評価規準

(1) 単元の指導目標

○自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、音読劇をしようとしている。

(関心・意欲・態度)

◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。(読むことア)

○文の中における主語と述語の関係に注意しながら、音読劇を発表している。

(伝統的な言語文化と特質に関する事項イ (カ))

(2) 単元の評価規準

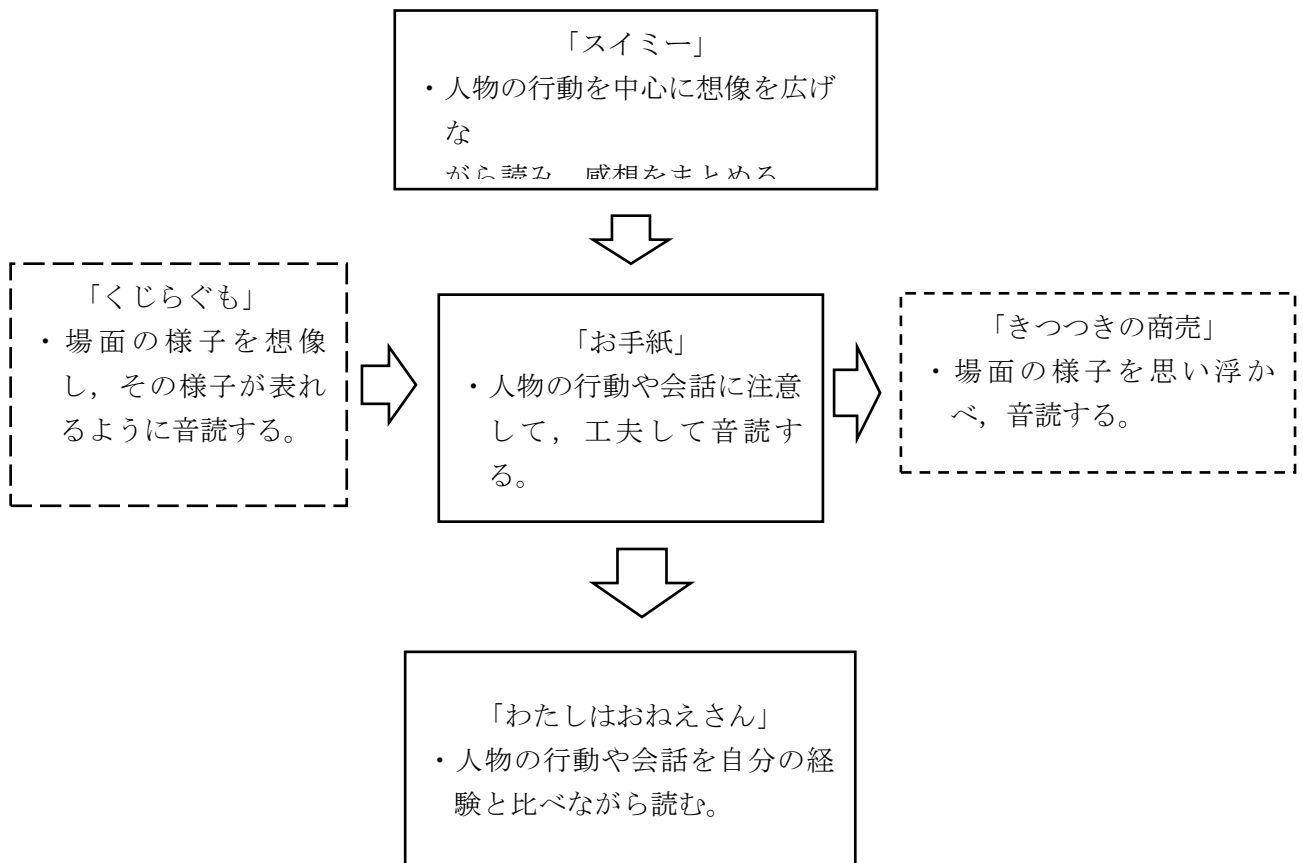
国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じた物語のおもしろさが伝わるように、音読劇をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人物の様子や気持ちを想像し、物語の様子が伝わるように工夫して音読している。 登場人物の行動や出来事から場面の様子を想像し、お気に入りの場面を見付けている。 自分の音読と友達の音読を聞き比べて、感想を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係を理解している。

5 単元の系統性

1 学年

2 学年

3 年生



6 単元の指導計画及び評価計画（1 1時間扱い）

段階	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
第一次 1時間	①「音読げきはっぴょう会をしよう」という単元のめあてを確認し、学習の見通しをもつ。 音読の様子を撮影する。	<ul style="list-style-type: none"> ・声と簡単な体の動きで表す音読劇に意欲をもたせ、自分が誰の役になって読みたいかを考えさせる。 ・同学年の他のクラスに音読劇を発表するという相手意識をもたせる。 ・「がまくんとかえるくん」シリーズの本を紹介し、並行読書をする。 	【関】音読劇を行うことに関心をもち、音読の工夫を考えながら学習に取り組もうとしている。（観察・発言）
第二次 8時間	②場所の移り変わりに着目して場面分けをし、一の場面について、二人の行動と会話を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰が」「どこで」「何をするか」「何を言うのか」に気を付け、内容を確認める。 	【読】場面ごとに人物の行動や会話を整理し、二人の行動を読み取っている。（発言・ノート）
	③二の場面について、二人の行動と会話を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰が」「どこで」「何をするか」「何を言うのか」に気を付け、内容を確認める。 	【読】場面ごとに人物の行動や会話を整理し、二人の行動を読み取っている。（発言・ノート）
	④三の場面について、二人の行動と会話を整理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰が」「どこで」「何をするか」「何を言うのか」に気を付け、内容を確認める。 	【読】場面ごとに人物の行動や会話を整理し、二人の行動を読み取っている。（発言・ノート）
	⑤がまくんとかえるくんが、手紙を待っていたわけを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述にもとづいて手紙を待っていたわけを考えさせる。 	【読】二人が、書いてあることがわかっている手紙を長い間待っていたわけを考えて話し合っている。（発言・ノート）
	⑥音読する場面を決め、読み方や動き方の工夫をワークシートに書き込む。	<ul style="list-style-type: none"> ・声の出し方や動き方について、音読の工夫を書き込ませる。 	【読】音読する部分を決め、読み方や動き方の工夫などを考えている。（ワークシート）
	⑦グループで音読劇の練習を行い、感想や助言を伝える。（本時）	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場面を選んだ友達と、グループで音読劇の練習を行う。 	<p>【関】読み方の工夫に気を付けて、グループで協力して音読劇の練習を行っている。（観察・音読）</p> <p>【読】グループで音読の工夫について感想やアドバイスを伝え合っている。（発言・ワークシート）</p>

	⑧ 友達の助言や読み方を聞き、音読のしかたを工夫し直す。	・グループで出した意見をもとに、自分の読み方の工夫に生かす。	【読】 友達の助言や読み方をもとに、自分の読み方を工夫し直し、練習をしている。(音読・ワークシート)
	⑨ 音読劇を発表し、感想を伝え合う。	・それぞれの工夫について、よかった点を中心に振り返らせる。	【読】 これまでの学習を生かして、音読劇を発表している。(観察) 【読】 友達の発表を聞いて、「読み方」と「動き」について感想を伝え合っている。(発言・ワークシート)
第三次 2時間	⑩ 「お手紙」の音読について振り返り、音読するときの工夫をまとめることができる。	・はじめの音読と音読劇の様子を比較し、音読するときの工夫をまとめる。	【読】 音読を振り返り、音読するときの工夫を話している。(発言・ノート)
	⑪ 「がまくんとかえるくん」シリーズの中から、好きなお話を選び、お気に入りの一文を音読で友達に紹介する。	・音読劇で学習したことを生かして、お気に入りの一文を音読させる。	【関】 好きなお話を選び、お気に入りの一文を友達に伝えようとしている。

7 本時の指導

(1) 本時の目標

考えた読み方の工夫に気を付けてグループで音読劇の練習を行い、互いの音読の方法について感想やアドバイスを伝え合うことができる。

(2) 評価規準

グループで協力して音読劇の練習をし、音読の工夫について感想やアドバイスを伝え合っている。

(努力を要する児童への支援：読み方の工夫や動きなどの工夫を考えたことを思い出させ、自分と比べながら、相手の音読を聴くように支援する。)

(3) 思いをもって伝え合う言語活動について

① 目的と読みの視点を明らかにした活動について【言語活動1】

目的・・・音読劇に向けて、物語の様子が詳しく伝わるようにするために読む。

読みの視点・・・叙述をもとに、がまくんやかえるくんの気持ちを想像しながら読む。

② 考えを形成し交流し合う活動について【言語活動2】

・グループで音読劇の練習をする。音読劇のモデルを示し、モデルのグループへのアドバイスを考える。そして、お互いの音読方法の工夫について感想やアドバイスを伝え合い、自分の音読の仕方に生かす。

段落	学習活動	○支援の手立て ★評価
みとおす 5分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習のめあてをたしかめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ものがたりのようすがくわしくつたわるように、グループで、音読げきのれんしゅうをしよう。 </div> 3 学習の流れの見通しをもつ。	○音読する部分や、読み方や動き方を考えたことを思い出させる。 ○前時までには、読み方の工夫や動きなどを書き込んできたことを確かめ、本時は、それらを中心に、音読の練習をしていくことを確かめる。
ふかめる 34分	4 音読劇の練習をする。 (1) グループで音読劇の練習をする。 (2) アドバイスのポイントを確認める。 (3) 同じ場面を読むグループで音読劇の練習をし、感想・アドバイスを伝える。 (4) グループで音読劇の練習をする。 5 まとめの音読をする	○グループごとに、自分が考えた工夫を確かめながら音読させる。【言語活動1】 ★読み方の工夫に気を付けて、グループで協力して音読劇の練習を行っている。【関】(観察・音読) ○音読劇のモデルを示し、モデルのグループにアドバイスをするとしたら、どんなアドバイスができるか考えさせる。 ○同じ場面を読むグループ同士で聞き合う。音読を発表するグループは工夫の観点を発表してから、音読・交流をする。また、友達の読み方でよいと思ったところは自分の台本に書き込んで、自分の音読に取り入れてもよいこととする。【言語活動2】 ★グループで音読の工夫について感想やアドバイスを伝え合っている。【読】(発言・カード) ○いくつかのグループに発表してもらう。
ふりかえる 6分	6 本時の学習について振り返る。 7 次時の予告をする。	○友達の感想や助言から気付いたことや次の時間に頑張りたいことについて振り返りをさせる。 ○次時は、グループで出た意見をもとに、自分の音読を工夫し直す時間とすることを伝える。

(5) 板書計画

お手紙

アーノルド・ノーベル

①かものがたりのようすがくわしくつたわるように、グループで音読げきのれんしゅうをしよう。

発表と挿絵とグループの名前

今日の学しゅうのながれ

- 1 グループでれんしゅう
- 2 アドバスのポイントをつたかめる
- 3 グループどうしで聞き合う
- 4 かんそう・アドバイスをつたえ合う
- 5 グループでれんしゅうをする

アドバイスのポイント

- はやさ
- なりきって
- 気持ちを考えて
- つよさ
- 間
- 場面に合ううごきを考える

ふりかえり

